

令和4年度 家庭教育支援プログラム指導者研修① 実施報告

実施日：令和4年5月24日（火）

【午前の研修】

○ 開講式

○ 説明「本県の家庭教育支援について」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 針谷 英子

栃木県で行われている家庭教育支援事業について説明がありました。受講者は、家庭教育支援プログラム活用促進事業や家庭教育オピニオンリーダーの養成、家庭・地域いじめ対策教育支援事業などについて理解を深めました。

○ 説明「参加型学習と家庭教育支援プログラムとは」

総合教育センター生涯学習部職員

参加型学習である家庭教育支援プログラムの活用によって参加者に期待される効果や、よりよい学びの場とするための指導者の役割、家庭教育支援プログラムの種類や基本構成などについて、説明がありました。受講者は、家庭教育支援プログラムのねらいや概要を知ることができました。



【午後の研修】

○ 演習「よりよい関係づくりを促すワーク体験」（前半）

河内教育事務所ふれあい学習課 副主幹 田中 久之

上都賀教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 宮田 一士

芳賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹 渡辺 浩行

家庭教育支援プログラムの導入で行う「アイスブレイク」の演習を行いました。始めにその効果や意義について確認した後、各教育事務所職員の円滑なファシリテートのもとで、密接・密集を避けながら実施できるアイスブレイクを実体験しました。

受講者は、演習を通じて自分たちの学ぶ場の雰囲気や和らぐ様子を実感するとともに、各活動の効果や特徴、より効果を高めるためのファシリテートの方法等、いろいろな気づきを得ていました。



○ 演習「よりよい関係づくりを促すワーク体験」（後半）

塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課 副主幹 浜 清美

プログラムの主活動である「ワーク」を何に配慮しながら、どう進めていくとよいのか、実際にワークを体験しながら学びました。

受講者は、参加者の意見を「傾聴」することや、話を『柔らかく』方向づける際のポイントなど、ファシリテーターとして大切にしたい9つの要点について説明を受けた後、これからどんなファシリテーターになりたいと感じたかを、10個目の要点としてワークシートに記入しました。ファシリテーターとしての基礎・基本を学ぶことができました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・虐待やひとり親支援に関わってきたので『本当に必要な人に支援が届かない』を痛感しています。自分も『おせっかいおばさん』のひとりになれるよう頑張りたいです。
- ・家庭教育支援がこのような形でなされていたことを知りました。奥が深く勉強になりました。
- ・新鮮な気持ちで研修に参加でき、ファシリテーターや家庭教育支援プログラムの基礎が分かりました。
- ・体験しながらアイスブレイクを学べてよかったです。緊張をほぐすだけでなく、気づきがあることも勉強になりました。
- ・今後若い親御さんたちの相談相手になるなど、少しでも家庭教育支援ができれば…と思っています。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp